

童謡・唱歌・叙情歌にみる 日本人の心

JASRACカジュアルゼミナール「童謡・唱歌・叙情歌にみる日本人の心」に、ようこそ来場いただきました。

このトーク&コンサートでは、日本音楽作家団体協議会（FCA）の全面的な協力を得て、時代とともに学校の教科書から消えつつある“日本人の心の歌”というべき童謡・唱歌にスポットをあて、これからも子どもたちに歌い継がれて欲しい心温まる愛唱歌をご紹介します。

今年は、1918年（大正7年）に児童文芸雑誌『赤い鳥』（1936年廃刊）が創刊されてから90年という節目の年にあたります。『赤い鳥』は、近代児童文学・児童音楽の発展に最も重要な影響を与えたとされており、この童謡運動の中から生まれた数多くの童謡作品は、瞬く間に世の中に広まり、人々に歌われるようになりました。

私たちは大人になった現在でも、それらを口ずさむことで、季節の変化を味わったり、家族を思い出したり、自分の子どもの頃を懐かしんだりする一方で、その優しい言葉に日本語のもつ意味までも深く考えさせられているような気がしてなりません。

本日は、これまでに生まれた数々の童謡の誕生から現在に至るまでの歩みを解説しながら、学校教育のために創作された唱歌や古くから多くの日本人に親しまれてきた叙情歌が、どんな思いで作られ、何を感じて人々が歌ってきたかを、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

また、ご来場の皆様が出演者と一緒に声を合わせて、気持ち良く歌っていただく曲目もご用意いたしました。お家に帰ってご家族で口ずさんでいただけるような魅力あるプログラムですので、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。



2008年12月12日(金)

18:00開演

府中の森芸術劇場 どりーむホール

主 催：(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)

協 力：日本音楽作家団体協議会(FCA)

共 催：府中市／(財)府中文化振興財団

(社)日本童謡協会／詩と音楽の会
／全日本児童音楽協会

後 援：府中市教育委員会

助 成：(社)私的録音補償金管理協会(sarah)

構成演出：牛山 剛

制作協力：(株)ユー・エム・エムサウンドシステムズ